

令和6年7月28日

令和5年度 学校関係者評価報告書

学校法人後藤学園
専門学校武蔵野ファッションカレッジ
学校関係者評価委員会

学校法人後藤学園専門学校武蔵野ファッションカレッジ「学校関係者評価委員会」は、令和5年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告致します。

学校関係者評価委員（「専門学校武蔵野ファッションカレッジ学校評価要綱」による選出）

- ・学校の専門分野における業界関係者（同第5条第2項第1号）
田中 大資 氏 株式会社クレヨン 代表取締役
- ・卒業生（同第5条第2項第2号）
古本 舞 氏 萬リンク株式会社 代表
- ・高等学校校長、進路指導担当者等（同第5条第2項第3号）
尹 春花 氏 川崎市立川崎総合科学高等学校
- ・学校の専門分野における業界関係者（同第5条第2項第1号）
石木 賢二 氏 株式会社 Vowel ディレクター／デザイナー
- ・学校の専門分野における業界関係者（同第5条第2項第1号）

市野沢 祐大 氏 株式会社 TEN10 代表取締役

令和6年7月28日

令和5年度 自己点検・自己評価報告書

専門学校武蔵野ファッションカレッジ

基準1 教育理念・目的・育成人材像等	
【現状と課題】	<p>本校の教育目標は</p> <p>『優れた人格と実践力をもった人材を生み出すこと』と定めており、実践力の定義としては『ファッションの専門性と社会人基礎力が融合したもの』としている。</p> <p>昨年度より新体制となり、「その先の未来を創る一心から楽しもう、全てやりきろう」を学校スローガンに掲げ、教員一同邁進、武蔵野ファッションカレッジらしさを確立する一歩を踏み出すこととした。</p> <p>数年間のコロナ禍により、ファッション業界も服飾学校も様々な対応を求められ変容をしてきた。状況と時代に則した職業教育の実現のために、業界・企業と連携し、実践的教育の質向上を目指す。数年間、あたためてきたカリキュラムの改訂は次年度の優先事項と捉えている。</p>
【改善のための方策】	<p>ファッション業界と整合性をもった人材育成としていくため、業界・企業との連携を積極的に活用していく。</p> <p>定期的カリキュラム会議を開催している。他校のカリキュラムを分析・検討し、武蔵野の特色を生かした授業構成を目指す。</p> <p>令和7年度より、シラバスフォーマットとガイドラインをリニューアルする。</p>
【関係者評価】	<p>学生それぞれの人間力を高める教育を。人間力としての最優先、具体的には挨拶や表情など根底にあるもので、社会人といえども大前提の基本と言える部分である。「ひとりひとり」をキーワードに達成感を感じられるように。場面場面で評価を伝えることも肝要であるだろう。褒められることから、評価を貰えることを理解し、そのことが原動力・活力にも繋がる。時代性ではなく、周りの環境が大事。重要な場面で感謝や謝辞を伝えられるように。</p> <p>カリキュラムも時代とともに見直しが必要である。武蔵野らしさは維持し、バージョンアップをはかれるように期待する。</p>

基準2 学校運営	
<p>【現状と課題】</p>	<p>ファッション校では進路ガイダンスへの講師派遣、出張授業や学校見学など、学生募集に関する業務から、SNSを含めた広告・印刷媒体の作成、教務事務全般も教員が担う。教員同志、協力し合える体制を整えている。各担当業務のルーティーン化と効率化を一層推進していくことは課題である。</p> <p>卒業生との繋がりや学校の繁栄・発展に欠かせない。卒業生の活躍こそ、学校としての成果であり、その良好な関係性の構築は恒常的に取り組むべきである。総合学園祭の1日目に、定例総会と懇親会を開催、会則の制定と承認、役員を選任と承認を行った。運営を軌道に乗せるべく、展開していきたい。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>多岐に渡る業務のスケジュールリング・フォーマットの確立とスムーズな情報共有に努める。設備や備品で補うことも改善と捉え、計画的な機器の導入なども検討していく。図書室のように教室及び施設を併設校と共有することで維持できる場合もある。学園の設備を有効活用していく。施設・設備の共有、職員間の業務の連携に留まらず、在校生そして卒業生、教員も交流する機会が増えることが、学園全体の発展に繋がるであろう。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>全学生の状況を把握できていることは有益である。他校では事務方が担う、教務事務や就職相談、募集活動など、業務が多岐に渡り、負担が大きい。瞬発力の高い組織・チームワークなど、フォーマットは整いつつあると判断している。</p> <p>ファッション学校の中だけに留まらず、学内、学外ともに外に出て交流を持つことで、分野や職種を超えた広範囲の視野を持つだろう。協力体制の構築が学園内でできることは、心強くコスト面でも有益である。活路となるのは後藤学園が、他分野で構成されているということである。ファッション校の学校運営改善への施策が、学園全体の活性化の起爆剤となり、リードしているように期待する。</p>

基準3 教育活動	
<p>【現状と課題】</p>	<p>ファッションスタイリング科2年生は、文科省の認可に充足する単位数を設けているが、広範囲での学びが必要と考え、必修として開講する科目を増設した。「ファッションマーケティング」もその一つである。業界の様々な職種で活躍する方々を招いて、それぞれのキャリアをもとにご講演いただく。未知の職種や意外な経歴に触れて、学生には非常に良い機会となり、教育課程編成委員、学校関係者評価委員の皆様にも、良い施策と評価をいただいた。職業理解の観点から、全学生を対象とすることや早期の開講などのアドバイスを頂戴している。</p> <p>期間限定ショップは、実践的な教育のステージであり、武蔵野が長年取り組んできた、特色ある実地研修と社会人基礎力育成の場である。より良い運営を目指し、昨年から大きく見直しをはかった。次年度は、時期も再検討し、7月の開催予定である。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>各学科の教育課程編成委員会において、定期的な意見交換を行うことで業界・企業の求める人材像を明確にする。学校関係者評価委員会では、本校の教育理念と業界の現状との整合性など、学校運営上の改善点を業界の有識者及び教育関係者に求めていく。</p> <p>業界の方々による講演を、職業理解とキャリアプランニングを考える機会となるように、両学科1年次に設置している科目での導入を検討する。</p> <p>期間限定ショップは、よりシビアに、データでの検証をしていく。予算・売上・消化率・その要因など、前年を上回ることを前提に戦略的な運営をしていく。</p> <p>研修への参加や作品制作など、教員のスキルアップと専門性を高める機会を設ける。そこに関わる、研修費や材料費の予算編成を行う。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>学生・保護者の納得が得られてこそ、学生満足度に繋がる。</p> <p>職種の幅の広さやキャリアアップという視点からも、臨場感のある講演は学生の視野を広げるだろう。</p>

基準4 学修成果	
【現状と課題】	<p>学生それぞれに合わせた就職指導は継続して行っている。業界での様々なキャリアをもつ教員組織であることが、活動中の学生にとって、幅広い的確なアドバイスにつながっている。本校の学生は堅実で大人しい気質であり、近年は工場での縫製職を希望するケースも増えており、内定の実績も出来てきた。</p> <p>依然、踏み出せない学生に就職活動を始めさせるというところが課題である。卒業後も未決定者の支援など、親身なサポートを心掛けている。</p>
【改善のための方策】	<p>担任による、個人面談を定期的に行なっている。</p> <p>就職先の開拓と授業の一環として、工場見学を行なっている。業界で活躍している人を週替わりで講師として迎え、現在に至るまでのキャリアや魅力を語ってもらう。様々な職種への興味を広げ、キャリアプランニングに向き合う授業を展開している。</p> <p>職種によって、その方面に造詣が深い教員が相談に応じている。サポートすることで自信を持って、踏み出せるような環境づくりを行う。</p>
【関係者評価】	<p>売り手市場の中、販売職はずっと募集を継続しているが、慢性的な人材不足は解消に至らずという状況。</p> <p>就職活動が出遅れる原因として、職種に対する知識と理解が不足していることが挙げられるのではないかと。早期のうちに、職種を学ぶ（知る）機会があることは一つの動きだしのきっかけとなり得る。</p> <p>縫製職を望む学生が増えてきたようであるが、「工場」の現場はかなり進化していて古いイメージと現在は大きく異なることを学生に伝え、働く場として認識を深めてみては。</p>

基準5 学生支援	
<p>【現状と課題】</p>	<p>退学率目標 4%以内</p> <p>若干の増加傾向である。入学している学生が抱えている問題の要因は様々であるが、精神的な疾病が多く感じられる。学費未納による退学を防ぐため、奨学金利用者への適切な運用の指導を行う。共通認識を持ち、組織的な対応として、担任だけに負担がかからないように努めている。</p> <p>かつてはビジネス系のFS科の方が多かったが、AP科新入生数がかなり増加傾向である。ものづくりが再注目されていることと、手に職をとという保護者の思考に起因すると認識している。入学後、技術習得に自信が持てない学生が多くみられている。1年次での退学が多くを占めている。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>1年生担任は、保護者との協力体制を築くとともに、全教員が学生とコミュニケーションをとることで、担任をサポートできるように心掛けている。個々の学生の技量に、より幅を持たせた指導を目指す。</p> <p>やむを得ず退学する場合でも、真摯に面談を重ね、方向を見定めてあげる配慮は怠らないようにしている。</p> <p>転科という処置を新たな選択肢として、検討中である。ものづくりについていけない＝退学ではない、もう一つの選択肢としての転科を実現できるか。単位習得に関わることから、入学から1ヶ月、1ヶ月半という期間を限定し、担任の面談と承認を受けて許可を得るというステップを考えている。</p> <p>入学前の体験入学の時に、希望と適性を考慮した個別面談を行い、学科選びの理解に繋げることが課題である。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>退学も退職も0%になることは難しいが、最良最善の理想として掲げていく。経済面での困難、精神的なもの、人間関係の悩みが多い。SNSで多くのものが見えすぎていて、学生も保護者も悩んでいるところに、手厚い対応をしている印象で多大な苦勞であろう。保護者も学生も学校に期待するものは大きい。体験入学の個別相談の際に方向性の擦り合わせになるといい。高校では保護者様対象で授業のオープン日を設けている。取り入れてみることも一つの案である。</p> <p>(転科という) 選択肢が増えることは、学生にとっていいのではないか。入学から5月頃の(やめてしまいそうな時期に) 学生が交流できるイベントを行ってはどうか。気分転換になり、クラス外の学生とも話せる機会を作る。ファッションを楽しむ、学ぶイベントなど、モチベーションを上げられるきっかけ作り。</p>

基準6 教育環境	
<p>【現状と課題】</p>	<p>次年度の安心・安全な教育環境の整備を目指す。校舎の老朽化による破損箇所が多く出ているが、担当部署がスピーディーに対応し環境整備に努めている。老朽化により根本的な解決にならない箇所も出ている。</p> <p>昨年につき、大画面のモニターをさらに1台導入。</p> <p>次年度、AP科の新入生増加のため、102教室をPC教室から実習教室へ改修、401教室をPC教室に改修することが決定している。それに伴い、椅子・作業台・バキューム・ミシン・ボディなどの備品数の補完が必要である。改修工事・備品購入費用ともに高額であるため、今後、数年の運用を熟考し、施工していく。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>少しずつ環境は整ってきている。毎年、学生数微増を目標としているため、整備・改修は数年、通用することを念頭に計画する。経年での劣化や故障による代替にも対応できるように、適正な数量の配備に留意する。法人事務局と相談を重ね、助成金を利用することで、学費に転嫁することなく施設・設備の整備を進めていく。</p>
<p>【関係者の評価】</p>	<p>学校の原資は学費であるが、（助成金を利用することで）増額を抑制しての配備を目指すという方向性に、学校の誠意、努力が感じられる。助成金を活用し、ビニ板・作業台などの標準的備品を、計画的に全教室に配備できるように検討をしてみてもは。</p>

基準7 学生の募集と受け入れ	
【現状と課題】	<p>ファッション校では進路ガイダンスへの講師派遣は、教員が対応している。SNSや広告・印刷媒体の作成、出張授業や学校見学の対応など学生募集に関する業務、教務事務も教員が担う。</p> <p>入学者数目標を立て、教員と広報部が連携し、募集に力を入れている。ガイダンス等の募集活動に教員が行くことで直接、カリキュラムや学校の様子を伝えている。更に高校生に直接指導をする出張授業も積極的に行っている。募集活動には引き続き力を入れていく必要がある。</p>
【改善のための方策】	<p>SNS発信、フライヤーなどデザイン・発信タイミングなど、効果の上がる広報活動を継続していく。在校生の楽しそうな様子に注目度が高く感じられる。ガイダンスにおいては、1、2年生からの進路の意識付けが、3年生での学校選択に大いに関わってくる。SNS投稿の評判も高いことから、本校の認知度は上がってきている。</p>
【関係者評価】	<p>学生がのびのびといられる環境であることはSNSやオープンキャンパスなどを通して伝えられていると感じる。それが入学者にも、キャンパスサポートスタッフにも伝わることで、増員の要因となったのでは。前向きな姿勢が伺える。</p> <p>ファッションに興味を持たせるため、高校や中学へのアプローチの必要性を感じる。</p> <p>体験入学の個別相談時から留意して、職種の周知を行う。職種の人物像など日常的な場面に置き換えて話すなど、伝え方に工夫して、学科選択のミスマッチを減じる。</p>

基準8 財務	
<p>【現状と課題】</p>	<p>原資である入学者確保への業務は遂行されている。昨年からの物品価格の上昇にともない、教材費は上げざるを得なかった。仕入れ先と方法を再検討し、画材や接着芯など一括で仕入れて小分けで販売するなど、学生の経済的負担をできるだけ減らす努力は行なっている。</p> <p>シラバス・ソーイングマニュアル、広報関連のフライヤーなど、編集アプリケーションを使える教員が増えたことで、印刷物の大きなコスト削減ができたことで、物品の高騰による教材費値上げを最小限に抑えることができた。印刷物のコストカットを実現したが、業務増は否めない。</p> <p>経費削減に職員室全体で取り組み、切り詰めた分で、教育に必要な機器の導入などに充てている。授業の充実に有益な機器を整えることは、教員の負担軽減にもなっている。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>教材費の精査は逐次行っている。テキストや物品の選定、発注業者の選定など、最適な予算運用となるように注力している。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>快適な作業環境として、校舎の美化・設備投資も重要である。カリキュラムに適合した設備である必要はあるが、あるもので工夫も尊重したい。</p>

基準9 法令等の遵守	
【現状と課題】	法令の遵守に関しては特に課題はないが、教務事務において引き継ぎが不十分な部分があった。各担当と連動・分担し、円滑な教務事務の体制を整える。会議の開催タイミングや情報開示の時期など、年間の流れを把握し、遅滞のない更新を目指す。模索中の部分も多い。
【改善のための方策】	学校の基本情報のデータなど、多岐に渡る情報を、担当ごとに入力するフォーマットを作成する。効率化の促進に尽きる。
【関係者評価】	前向きに学校運営を行っていることが感じられる。

基準10 社会貢献	
<p>【現状と課題】</p>	<p>昨年度末に学園としてSDGs 委員会が設置され、併設各校、それぞれの取り組みを報告した。武蔵野ファッションカレッジでは昨年に引き続き、「3つのR」の理解と実践を推進していく。</p> <p style="text-align: center;">リデュース (Reduce : 削減)</p> <p style="text-align: center;">リユース (Reuse : 再使用)</p> <p style="text-align: center;">リサイクル (Recycle : 再資源化)</p> <p>学園他部署や併設校との連携を図り、活性化をしていくことで、学園全体の活路を見出したい。FS科ではリメイクにずっと以前から取り組んでいる。アップサイクルとして、ごく自然に恒常的に取り組みができていく好例と捉えている。「感度の高さ」を維持していくことに引き続き努めていきたい。</p> <p>商業施設とのコラボレーションイベントを行った。ショー用の場所ではないところで、真冬の天候ということもあり、苦労はあったが、学生・保護者にも楽しんでもらえる機会になった。今後も、地域の学校として地域の活性化への貢献、そして学生作品を外部の人に見てもらえるチャンスという観点から、前向きに検討する。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>SDGs・社会貢献意識は一過性としないうちに継続した問題意識を持たせる必要があるが、できているものもある。継続できる取り組みが重要である。古着をアップサイクル以外に、近くにあるもの一つ一つを上手に大切に使うことは、授業の基本である。</p>

【関係者評価】	<p>製品廃棄はなし、残反は出さずに「物を使い切ること」が重要である。</p> <p>SDGsの形も年々変わってきているのでそこに敏感になっていくことが大切だと感じている。単純に破棄・廃棄・リデュースといったことがSDGsとされていたことが、ここ何年かでだいぶ変わってきているので、どこまで追えるかが大切な事である。</p>
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

以 上